

ヒアリ



東洋産業だより

Vol. 164
2017年9月号

今年5月にヒアリの個体群が国内で発見され、それ以降、この話題を耳にすることが増えました。ヒアリが日本に侵入し、特に問題視されているのは健康被害です。ヒアリに刺されると、数分続く痛みと白い膿疱ができます。人によつてはひどいアレルギー症状（アナフィラキシー）を引き起こし、死に至ることがあります。また、もしヒアリが日本に定着してしまつと、日本の在来種である哺乳類や鳥類、昆虫類、植物など、ほとんどの動植物に影響が出るとされています。

現在日本で発見されているヒアリはほとんどが中国から持ち込まれたコンテナに付着していたものではないかと疑われています。ヒアリは元々、南米中部の高温多湿な熱帯・亜熱帯が原産ですが、現在ではアメリカ、カリブ諸国、オーストラリア、アジア圏ではフィリピン、タイ、台湾、香港、中国等にも侵入、定着が確認され、これらの国では一般住宅や公園など、人の多く集まる日当たりの良い場所に営巣しています。日本では現時点で輸入したコンテナ周辺

での発見にとどまっています。定着してしまうと、短期間で私たちの生活圏に広がることになるでしょう。

一方で、アリ類の多くは縄張り意識が強く、同種間でも別種間でも縄張り争いをするため、すでに在来のアリが巣を作っている場所に数頭のヒアリが侵入しても巣を作ることは困難であると考えられます。また、ヒアリの生殖虫（羽アリ）が出現するまでには、巣を作つてから約2年かかるとされるため、それまでに巣を駆除することができれば、定着する可能性は下がります。現在日本では、環境省を中心に全国で統一的な調査、駆除を行つており、定着が阻止される可能性も十分にあります。これらの状況から、今の段階で外国からの物資の出入りがある港湾と、そこからコンテナが持ち込まれる場所以外で必要以上にヒアリの警戒する必要はありません。港湾などのヒアリの侵入が疑われる場所において、ヒアリの対策を行うためには、専門家による適切な調査、駆除が必要です。また巣に対して殺虫処理を行う場合は大

量のアリが巣から出てくる恐れがあるため、自分で行わず、専門の業者に依頼してください。万が一、ヒアリを見つけた際は、環境省の地方環境事務局に速やかに報告してください。弊社では、ヒアリを含むアリ類の調査、駆除も行っておりますので、いつでも弊社までご相談ください。

実物の大きさ※大きさと同定は困難
体長2.5~6.0mmで個体差がある。



アリ塚



ヒアリのアリ塚（巣）は、土で作られ、開放的な草地や裸地に多く見られる。

ヒアリの主な特徴



画像：環境省HP

今月の豆知識：アナフィラキシー

『アナフィラキシー』とは、どういった症状なのでしょう。まず、細菌やウイルスなどの体に害のあるものを体内から排除しようと抗体がつくられ、やっつけようとするのを免疫といいます。しかし、この免疫のしくみが、体に害のない食品や花粉が体内に侵入した際に、体に害のあるものであると過剰に反応し、自らの体まで傷つけてしまうことを『アレルギー反応』といいます。さらに急性で重度かつ全身性のアレルギー症状のことを『アナフィラキシー』といいます。『アナフィラキシー』はアレルゲンを摂取後、極めて短期間で発症し、蕁麻疹や息切れ、唇や口の中が腫れ、強い腹痛などの症状が出ます。さらに血圧の低下や意識障害を引き起こし、死に至ることがあります。そのような生命の危機に陥ることを『アナフィラキシーショック』といいます。ハチ毒（ヒアリも同様）の場合は、食物と違い直接体内に入るため、心停止が起こるまでの時間が極めて早いのが特徴です。もし、ハチやヒアリに刺された場合は、刺された直後は症状がなくてもすぐに応急処置を行い、近くの病院へ受診してください。


東洋産業株式会社
 本社 岡山市北区新屋敷町3-19-20
 TEL 086-2241-8080
 FAX 086-241-8094
 拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
 高松・松山・金沢
 www.to-yo-s.co.jp
 (バックナンバー掲載中)